

MMS 研究会 2004 年度第 2 回幹事会議事録

日 時：2004 年 5 月 28 日（金） 18 時～20 時

場 所：八重洲ホール（東京都中央区）

出席者：浅野、林、宇野、森田、本間、松元、若田、大山、中嶋、山影

（中川：実務担当として参加）

（欠席：矢嶋、田中、兵庫、浜田、齋藤）（順不同、敬称略）

議題

1. コメットアッセイ共同研究について

1) 世話人について

- ・ 本共同研究の世話人については「幹事会」としていたが、UKMS との国際共同研究に発展したことにより、共同研究を行う上で実際に活動できる世話人を明確にし、実効性をはかることにした。以下の幹事を世話人とすることで合意した。また、3 機関については、Lead Lab.としての活動を検討頂くこととした。

世話人： 浅野、中嶋、林、宇野、大山、大森、山影、（佐々木）

世話人代表： 中嶋

海外窓口・調整： 林、宇野

Lead Lab.（候補）： 安評セ、ヤクルト、食薬セ

統計担当： 大森 崇（京都大学）

（八戸工専の佐々木氏は現在病気療養中につき、復帰したい参加してもらう）

2) UKEMS との共同研究について

- ・ UKEMS との共同研究については、OECD のガイドライン化に直結すること、コメットアッセイは ICH での検討事項になっていることなどから、MMS としても積極的に寄与していくことを確認した。

3) MMS 研究会としての検討事項について

- ・ 国際共同研究では大きく分けて、「動物に関わることについて」、「細胞の調製について」、「泳動像の評価について」の 3 項目が問題になると思われるが、当面は以下の基本路線で活動を進める。

(1) UKEMS comet assay workshop での説明資料

- ・ Lead Lab.で細胞の調製方法について検討する（細胞 or 核？）
- ・ 非変異・がん原性への対策研究会で行ったコメット共同研究のまとめを workshop でプレゼンテーションする（問題点を明示することが可能になると考えられる）

(2) 共同研究検討項目

- ・ UKEMS との共同研究以外に MMS が興味を持っている点については独自に実施する。

(3) OECD バリデーションスタディー

- ・ OECD バリデーションスタディーが開始されたときには、OECD バリデーションスタディーのマネージメントグループの管理下での共同研究になる。

- ・ 予備的検討で発生する費用については、必要に応じて、MMS 研究会の会計から支出する。
- ・ 共同研究およびバリデーションスタディーの実施に際しては、JEMS 会員にも広く参加を呼びかける（ただし、MMS 会員でない場合は入会して頂く）。

4) UKEMS comet assay workshop（2004年7月7日，UK）への参加について

- ・ 宇野幹事を派遣する。ワークショップでは、国際共同研究を実施するにあたり MMS 研究会の考えを説明してきてもらう。
- ・ MMS としては、Lead Lab. で検討した細胞調製方法（細胞核か）の結果を発表し、検討結果に従った調製方法で国際共同研究に参加することを言明しておく。
- ・ 日本と海外で作製した乾燥標本の交換し、それぞれの標本の質の比較をすることを提案してみる（検討臓器としては骨髄、肝臓、その他堅い組織？等も考慮）。

5) その他

- ・ 今回のコメットアッセイ共同研究を始めるに当たり、最初に技術部会、評価部会の構成を考えたが、この共同研究が国際共同研究に発展したこと、OECD のバリデーションスタディーが実施されれば別途マネージメントグループが組織される現実を踏まえ、評価部会を廃止し、従来の共同研究と同じパターンをとることとした。従って今回の共同研究に評価部会は設置しないこととした。原則的には、共同研究参加者にはできるだけ実験をして、データを出す方向で参加してもらう。